



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 3 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成5年8月1日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



【生きる】 前田 等氏・画

今月のことば

「意識的・積極的」

毎日同じ仕事をしていると、つい無意識・習慣的になってしまう。しかし、毎日している事でも、これでよいのか、もっと他にやり方はないのか、と意識的・積極的に考え、取り組んで見たらどうだろう。

仕事の仕方にしても、人に接する態度や言葉づかいにしても、もっとこうした方がよいと気付かされる事が案外多いのではないだろうか。

前に職員の研修会で教わったり、指摘された事柄でも、聞いただけで終わらせてしまっている事があるのではないか。

人間国宝に選ばれた或人が「どこまで行っても、これでよいと言うことはありません。死ぬまで勉強です。」と話しておられるのを聞いた事がある。

毎日を無意識・習慣的に過ごすのと、意識的・積極的に生きるのとでは、その結果に大きな差が生まれると思う。

新生 岡村病院への期待

A + A 総合計画事務所

所長 阿部 彰

医療界をとりまく環境は益々厳しくなり、病院相互の競争は一段と激しい時代となりつつあります。特に高知県は人口当りの病床数といい、人口の高齢化といい、正に医療経営問題の先進県ということになります。私も、日頃新しい時代の病院はどうあるべきかを色々と考え提案させていただいておりますが、この度、岡村高雄先生のお招きを得て、本院の設計の御依頼を承りました。

既に本院の設計が始まって20ヶ月が経ちましたが、来年の2月には全てが新しい病院に生まれ変わります。広い更な敷地に建設するのと違い、街中の限られた広さの土地に医療活動を継続しながら建設を進めることは、色々な障害や不都合があります。職員の皆様は申すまでもなく、患者の方々の御協力が無くて出来るものではありません。加えて岡村・谷岡副院長をはじめ、関係者の強い意志と熱意が突って隣の敷地を借りる同意が得られ、現在の仮設建物の建設が可能になった時から、この計画は実現への本格的なスタートを切ったということになります。まさしく「天の時」「地の利」「人の和」が三位一体となって実現への歯車を廻したと言えるでしょう。

今、古い建物があつた敷地に新しい建物を建設中で今年の暮に完成しますが、次には外来のある建物を改修することになります。これまでに一回目の院内移動がありました。11月には二回目の移動があります。この時点では移動してその場所に定着する部門もありますが、もう一度移動しなければならない部門もあります。この3段階の移動を経て、ようやくグランドオープンということになります。この時正式に建物や設備の使い方のルールと、いま導入されつつあるH. I. (Hospital Identity)の具体的な運用が実施されることとなりますが、その間の仮運営時のルールと大きな差はない筈です。しかし、本運用時とははっきりと区別しておいて戴きたいものです。既に職員の皆様は古い建物の頃をそろそろ忘れつつありませんか。人間は馴染んだ流れを新しい流れに変えようとすると非

作品プロフィール

霞が関ビル(建築学会賞 他)
新宿三井ビル(建築学会賞 他)
茨城県古河市庁舎(建築業協会賞)
千葉県小見川町庁舎
三井ガーデンホテル熊本
三井記念病院(建築業協会賞)
井上眼科病院・前田外科病院
神尾記念病院(日本病院建築賞)



常に抵抗があるものですが、一旦新しい流れに乗ってしまうと極めて早く順応し、以前のことは忘れてしまいがちな便利な生きものです。同じように、一度慣れた動作を直すことは大変抵抗のあることですが、納得して直しさえすれば結構難しいことでも自然と動いていくものです。建物全体の一挙完成であればスムーズに移行しやすいのですが、本院のように段階的に新しくなっていく場合は格段の努力が必要とされます。

このような意味合いの中で、今回の建設に魁けて本院がH Iを導入することは最も望ましい方法であったと思います。H Iは、創刊号で岡村高雄先生も述べておられますが、言い方を変えれば対外的には建物から封筒・便箋に至るまでの、イメージアイデンティティの確立であり、内部的には意識の啓発と統一を目標にしたものといえます。一般的には、H I計画を先行させて建設計画を進める例は稀です。どうしても建築はボリュームも大きく、投資額も大きいために建築が先行し、その付属物としてH Iをとという形が多くなります。しかし本来的には、本院のやり方から始めるほうが好ましいのです。それは建築を使うために人間があるのではなく、人間の生活や活動のために建築があるからなのです。しかも病院は立場の違う人々が同じ機能や室内を使い合うものです。とすれば、一人の人の好みに合わせて造る訳にはいきません。従って何らかの合意されたルールが必要であり、そのルールづくりの原点がH Iに表され、指針となっていくのです。今病院が掲げる“チャレンジ3”の基本ポリシーはそのまま建築計画の基本コンセプトに織り込まれています。

本号では概論として述べさせていただきましたが、完成時に再び紙面をお借りして岡村病院設計の考え方を具体的に説明させていただきたいと思っております。

健康一口メモ

痔主の皆様へ

肛門病は多種多様ですが、大別すると排便時の“りきみ”に起因する『痔核』と、硬い便の排泄で“切れた”『裂肛』、肛門に細菌感染が起こった『肛門周囲膿瘍（痔瘻）』が代表的なものです。その症状は①痛み：内痔核は本来痛みはなく、出血が主な症状です。ただし内痔核が脱出して戻らなくなった時や、血栓ができた時は痛みを感じます。裂肛は痛みが激しく、排便後数時間、時には半日も痛みがとれないこともあります。肛門周囲膿瘍は排便と関係のない激しい痛みや拍動痛があり夜眠れないほどになります。②出血：内痔核からの出血は鮮やかな赤色で、量も多く時にはほとぼしるように出ます。外痔核は出血しないことが多いのですが、表皮が破れると黒い凝血が少量出ます。裂肛もあまり出血しません。③脱出：初期の内痔核は肛門外には出ず、進行すると排便時に肛門外へ脱出してきます。初めは排便が終われば自然に肛門内へ戻りますが、悪化すると指で押しこまなくては入らなくなり、ついには常時脱出したままで、痛みのため坐るのも困難になります。脱出してくるのはポリープや、直腸脱のこともあります。④便秘：内痔核や裂肛の患者の大便は硬く排便に時間のかかるものが多く、痔瘻は

肛門科・消化器科・外科医長

竹内 一八



下痢しやすい人に多く見られます。⑤発熱：痔疾患で発熱するのは肛門周囲膿瘍のみで、痔核で発熱することはありません。肛門病で日常生活上、気をつけることは(1)毎日風呂に入る：血行が良くなり、清潔にもなり、最高の予防、治療法です。(2)おしりをきれいにする：汚くしておくで肛門を刺激し、病気を悪化させます。排便の後はお湯で洗い、清潔にしておきましょう。(3)便秘・下痢はよくない：便秘・下痢は肛門病の大きな原因です。排便をスムーズにするよう気をつけましょう。(4)トイレは短時間で：トイレで長くりきむのは肛門に負担をかけ、よくありません。ある程度便が出たら、完全に出しきろうと頑張らないことです。(5)酒、コショウ、からしなどの刺激物は避ける：アルコール類や刺激物は肛門を刺激してよくありません。過度にならないよう気をつけましょう。(6)間違った治療は禁物です：正しい診断をつけてもらうことが、痔を治す第一歩です。大事なことですが、腸の病気ではないことを一度は確かめておきましょう。

随 想

日々精進



婦長 須藤 福子

「光陰矢の如し」のことわざのように月日の過ぎるのは早く、私が当院でお世話になって1年4ヶ月になります。

どちらを向いても最新の医療器具が設備されているのに唯々驚き、正直いって皆様の足手まといになりはしないかと、不安もありました。しかし再度看護の勉強をする機会を得られた喜びをかみしめ、院長先生を始め、皆様におそわりながら無我夢中の今日この頃です。

看護職の他、有名人の講演などにも耳を傾けました。花作りなどの趣味にも目を向け今まで歩んで来た道も決して無駄ではなかったと思っています。

物を愛する気持ち、例えば血压計にしても愛する気持ちで扱えば自然と丁寧になり長持ちし看護業務に役立ってくれるでしょう。日々接する患者さんに対しては、きめ細かな心配りを忘れず看護サービスに努めましょう。

それに加えてお互いに意思の疎通を図り明るい、楽しい職場、働きがいのある職場にするため「和」と言う言葉を大切にし明日へめざしたいものです。今年はどうのような花が咲くではなく、どのような花を咲かそうか心一つにして努力しましょう。

ひろば ちょっと聞いて



将来の夢

看護学生 竹崎 さちよ

私は、中学生になるまでは、将来の夢というのを特別もっていませんでした。そんな私が看護婦になろうと思ったのは、祖母の入院がきっかけでした。祖母のお見舞いに行った時、すばらしい看護婦さんに会ったのです。すべての患者さんに対しての思いやりをもった対応、てきぱきした機敏な行動。その看護婦さんと話をする患者さんの表情もとてもうれしそうに感じられました。その時に私は、こんな看護婦さんに自分になってみたいと思い、看護婦になることを決意したのです。

今、看護学生としてがんばっていますが、慣れるまでは予想以上に、つらく、しんどい毎日が続きました。肉体的というよりは、精神的ダメージが大きく、何回か具合が悪くなったこともあり、何度もやめようと本気で思いました。私は、動作が鈍く、要領も悪いため、失敗するたびにこの仕事は自分に向いてないのではないかと考えこんだり、今でもそういうことがよくあります。けれど、患者さんと話をしていたり、お世話をしたりする時、患者さんが自分に対して本当にうれしそうなお表情をしてくれたり、“ありがとう”という言葉を書いてくれるたびに、すごく励まされ、やはり、がんばらなくてはいけないという気持ちにさせてくれるのです。自分が落ちこんだ時、そうやって今まで何回も励まされました。これからも、今まで以上、落ちこむことも、つらいことも数多くあると思いますが、やはり私は、人の世話をするのが好きなので、患者さんの励ましの言葉をいつも思い出して、すべての患者さんに親しまれる看護婦をめざして、今まで以上にがんばっていきたいと思います。

ニューフェイスです。ヨ・ロ・シ・ク!!



伊藤 恵子さん

看護婦

国立高知病院附属看護学校卒
高知市青柳町 趣味・料理

<退職> ご苦勞様でした。

5月 池浦 博子さん (看護婦)

旅行委員からのお知らせ

院内旅行の人数が集まりましたので、下記の通り実施出来ることになりました。

第一班 9月18日(土)~19日(日) 20名

第二班 9月25日(土)~26日(日) 20名

時間・行きは朝10時10分高知空港発

帰りは夕18時30分 〃 着

行程 第1日 長崎市内観光(大浦天主堂・グラバー園など)

第2日 長崎ハウステンボス遊覧

往復とも航空便ですが、運航時間に変更があるかも知れませんが、最終決定後、改めて詳しい時間内容を連絡いたします。

— レク 便 り —

去る7月26日月曜日、スワン会主催によるピア・パーティが予定通り行われた。雨の為、急遽新阪急ホテル屋上に場所が変更になったにも拘らず、26人の参加があった。

日頃より楽しみにしていただけに、大変な盛り上がりを見せた。乾杯の合図と共に、一杯目のビールが疲れた身体を生き返らせてくれた。特に、女性陣は、テーブル狭しと並べられた料理に心を引かれ、あれこれと美味しそうに頬張っていた。

激しい雨だったが、雨音にも負けず、ワイワイ、ガヤガヤ、賑やかに楽しい一時を過ごした。

今回もレクレーションは大成功だった!!



表紙絵説明 「生きる」

今回の表紙絵は当病院 356号室に入院されている前田等さんが、昨年県展の日本画部門に入選された作品の原画です。

— 編集後記 —

今回も皆様の御協力により第3号を発行することが出来ました。ありがとうございました。